

## ■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年  
定時株主総会 毎年6月開催  
基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
          期末配当金 毎年3月31日  
          中間配当金 毎年9月30日

### 【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
株主名簿管理人  
事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) ☎ 0120-176-417  
(インターネット  
ホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

単元株式数 100株  
公告方法 電子公告の方法により行います。  
(当社ホームページURL <http://www.manac-inc.co.jp/>)  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合、日本経済新聞に掲載する方法で行います。  
上場証券取引所 東京証券取引所 市場第二部



〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地  
☎ 084-954-3330 ☎ 084-957-4370  
<http://www.manac-inc.co.jp/>

マナックは、化学をベースに、技術と知識の融合により  
先端技術産業が求める機能を開発・提供する

**研究開発型モノづくり会社です。**



第67期のご報告

# 株主通信

2011年4月1日▶2012年3月31日



証券コード: 4364

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第67期株主通信をお届けするにあたり、皆様の日頃よりのご支援ご協力に重ねて御礼申し上げます。

さて、当社グループは2011年度より「グローバル・マナック」をスローガンに新しい中期経営計画を策定し、「売れモノづくり」「国際市場の開拓」「利益重視」の3つのテーマで取り組んでおります。

当社グループは、これまで国内市場を中心に比較的安定した業績を残してまいりましたが、近年の円高は当社グループへ直接的・間接的に為替変動の影響を及ぼすと同時に、ユーザー産業の海外シフトは着々と進行しております。この結果、海外品との競争はますます激しくなっております。

今後さらに激化する国際競争の中、当社グループは、ファインケミカルや臭素の国際市場において、われわれが強みを持つ臭素・ヨウ素技術を活かして「より高い付加価値」を提供し、グローバルニッチ市場での勝ち組を目指した事業活動に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社グループの事業活動にご理解を賜り、更なるご指導ご支援をいただきますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 杉之原 祥二

企業理念

「スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する」  
～進化する技術、そして進化する人間をめざして

経営理念

- 1 「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」をめざす
- 2 英知と勇気をもって能力を最高に発揮し、企業価値の最大化をめざす
- 3 明日の未来社会から注目される会社をめざし、常に『革新』

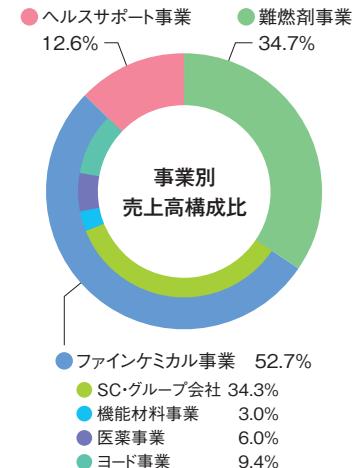
化学業界におきましては、在庫調整が一巡した後需要回復傾向にありましたが、歴史的な高水準が継続する円高や欧州における財政不安などから本格回復に至っておらず、先行き不透明な状況が引続いております。

このような状況の中、当社グループは、事業部門では電子材料や医薬分野において新しいマーケットの開拓とニーズの発掘に積極的に取り組んでまいりました。研究部門では従来のハロゲン化技術にとどまらず多面的な中核技術の確立に取り組むことで新製品・新技術の開発に注力し、生産部門では主力の難燃剤を中心に原価管理の徹底や工程改善によるコストダウン及び固定費の削減に取組み、事業全般の業績改善を推進してまいりました。

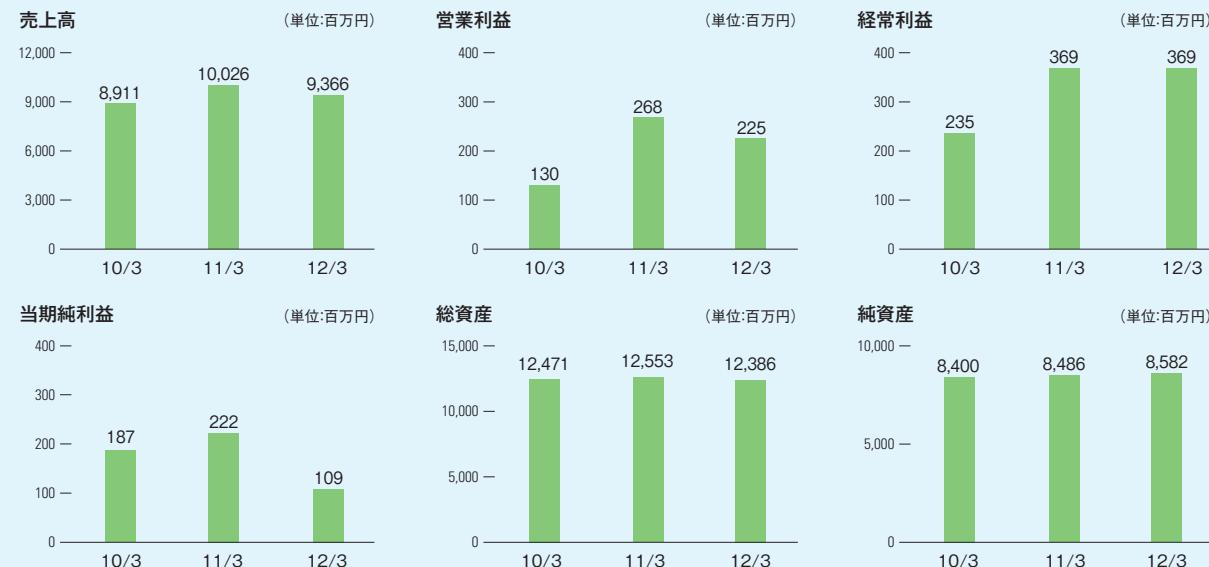
この結果、第67期の売上高は9,366百万円、営業利益は225百万円、経常利益は369百万円となりました。

当期純利益は、その他有価証券の減損処理による評価損や確定拠出年金制度への移行による退職給付制度終了損などの特別損失を計上したことから109百万円となりました。

セグメント別では、ファインケミカル事業の売上高は4,934百万円、難燃剤事業の売上高は3,252百万円、ヘルスサポート事業の売上高は1,179百万円となりました。



## 財務ハイライト





## Q 2012年3月期の概況についてお聞かせください。

A 2011年度は上半期についてはほぼ計画通りに推移しましたが、下半期は高水準な円高の影響を受け、当初計画の約20%減の業績にとどまりました。この結果、年間の売上は前年度の約7%減となりましたが、営業利益・経常利益はともにほぼ前年度と同様の結果を残すことができました。しかしながら、株式の評価損および確定拠出年金への移行のための費用などがかさんだため、純利益としては厳しい状況となりました。円高および原油高の影響については、当社としては一般的な影響の範囲内でしたが、当社のお客さまの輸出関連事業が大幅に鈍化したため、間接的な影響を受けました。

## ファインケミカルをキーワードに、世界的サプライチェーンの重要な構成員として、“グローバル・マナック”の実現をめざします。

当社は2011年4月より新経営三ヶ年計画をスタートし、国内・海外の垣根を取り払った国際的なファインケミカル企業“グローバル・マナック”へと舵を切りました。今回は計画初年度の終了にあたり、この一年間の概要と感触、さらには計画の達成へ向けての考えなどをお伝えします。

## Q 各事業分野の状況についてお聞かせください。

A 難燃剤事業につきましては、電気・電子関係のお客さまが多いため円高の影響を大きく受けましたが、昨年秋頃をピークに今年1月頃からは回復がみられます。この分野はトイレの便座やノートパソコンや携帯電話の部品など、発熱を伴う製品が万一発火した場合でも延焼を防ぐためのものと、カーテンや壁紙、プラスチック雑貨など、一般に燃えやすいとされる化学繊維やプラスチック類を燃えにくくし、安全性を高めるためのものという2つの方向性で製品の開発を進めています。今後は国内市場の大きな伸びが期待できず、お客さまの海外比率が高まるため、アメリカやイスラエルと並び、世界有数の高機能難燃剤技術を持つ日本のメーカーとして、直接・間接に海外市場の開拓を強化してまいります。

ファインケミカル事業では、中国などの追い上げが厳しく苦戦しました。これに対応するため中国製品ほど安価ではないものの、性能と

コストのバランスに優れた新製品を2011年夏過ぎに市場に投入し、2012年の後半には効果が出てくるものと考えております。またモノマービジネスが後発国に押され十分に利益がとれない現状を打開するため、かずさ研究所において、高耐熱接着テープや半導体生産に欠かせない感光性樹脂など、当社の独自技術の川下製品への展開を積極的に図り、成果を上げています。

医薬事業については、開発期間が長い現状直ちに売上に貢献する製品はありませんが、承認申請の直前となっている製品もあり、製薬メーカーなど当社技術を適応できるメーカーへのアピールを進めてまいります。

ヨード事業については、主要なお客さまであるコピーマシンや液晶TVのメーカーが、欧州の経済不安による輸出の鈍化やエコポイントの終了などの影響により出荷減となったため、苦戦を強いられました。

## Q 「グローバル・マナック」とはどのようなことですか。

A 日本では人口の減少や為替リスクの問題などから、家電メーカーや自動車関連企業をはじめ、多くの企業が生産・販売の拠点を海外へシフトしています。化学業界も例外ではなく、後発国が追随しやすいモノマービジネスから、高度な技術を必要とする川下の製品展開の強化が急務となっています。当社でも原材料の入手だけでなく、研究・生産の拠点としての海外、特にアジア諸国の中でも経済成長が著しく、教育も充実し優秀な人材が育ってきた中国あるいはインドなどに注目しています。さらにこのような海外の拠点を足がかりとして、アジアで生産して欧米へ輸出するという世界的サプライチェーンを構成する重要なメンバーとして、この製品ならばマナックだという確固たる地位を築いていくことが必要です。これを実現するために、研究・開発型企業として海外での人材確保も含め、国内・海外の区分を一切取り払った国際企業としての当社の姿を「グローバル・マナック」と銘打って新経営三ヶ年計画のスローガンとして掲げています。

## Q 「グローバル・マナック」の実現には何が必要ですか。

A ひとつは先ほど申し上げた「国際市場の開拓」です。また研究者の意識を改革するための重要なテーマとして「売れモノづくり」を掲げました。自分に興味があるところに向きがちな研究者の視線を、まずマーケットに向けることにより、お客さまに買ってもらえるモノを作るという意識改革を行います。「売れモノづくり」はビジネスの原点であり、もうひとつのテーマである「利益重視」につながっていきます。また他メーカーとの共同開発や広島大学などの産学協同事業なども、研究者の視野を広げ外部からの新鮮な刺激を受けるために積極的に取り組んでいきたいと考えています。

## Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 当社を支えてくださる株主の皆様への利益還元として、配当につきましては長い目で見た安定配当を重視するとともに状況に応じて業績を反映させていきたいと考えております。また株式の流動性を高め、皆様の利益に貢献できるよう努力してまいります。

新経営三ヶ年計画の中では国際市場の開拓に力を注ぐ所存ですが、ファインケミカル技術を海外へ展開することは、当社にとって現在の延長線上に必然的にこなすべき課題であります。近い将来「グローバル・マナック」としての当社の新しい姿をお見せできるよう、社員一同全力で取り組んでまいりますので、株主の皆様には、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する ～進化する技術、そして進化する人間をめざして～

スペシャリティーケミカルとは、電子・情報・医療といった先端技術産業が求めるニーズ機能を、化学技術を基にして提供する「機能性化学品」をいいます。当社は、求められる化学品を単に受託製造するのではなく、それらに関連した情報を組み合わせることにより、オリジナリティーのある製品を提供し、世界への貢献を行います。

### ■ 主な特徴・用途と戦略

#### ● 難燃剤事業

##### ● 主な特徴・用途

高耐熱性、耐候性、精密部品に対応し優れた高機能難燃剤を開発、提供しております。

主な用途として、テレビ、ビデオ、オーディオ機器などの家電製品を中心に、近年では、パソコン、携帯電話などのIT関連機器、自動車などに用いられるプラスチックに添加されております。

##### ● 戦略

長年にわたって蓄積してきた開発技術、製造技術を駆使し、お客様の信頼に応え、市場の拡大をめざします。

#### ● ファインケミカル事業

##### 機能材料事業

##### ● 主な特徴・用途

パソコン、携帯電話、デジタルカメラなどのメモリーやIC素子の周辺材料、半導体の絶縁膜、コート材などに使用する機能性材料、電子材料などの化学素材を開発・製造しております。耐熱性や絶縁性に優れた特性を活かし、航空宇宙関連やその他の分野に積極的に用途開発を行っております。

##### ● 戦略

強化した生産・開発体制を駆使して、新たな機能材料の開発・供給を本格軌道に乗せ、マナックブランドと高付加価値を追求します。

##### 医薬事業

##### ● 主な特徴・用途

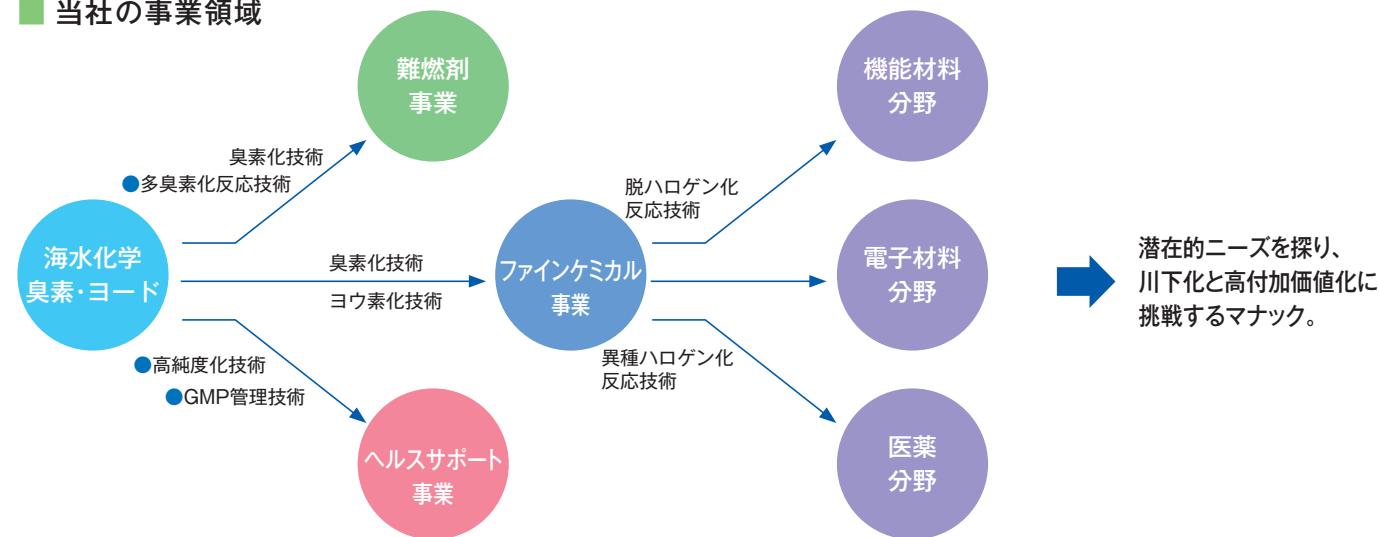
多数の製薬メーカーの依頼を受けて原薬・中間体の共同開発や原料の供給を行っております。

中間体から原薬までの受託が可能な製造体制、充実した設備、品質管理体制を整え、事業拡大に向けた体制が整備されております。

##### ● 戦略

原薬製造プラント及び新機能開発設備の導入、更には新規開発品の拡大・企業化を視野に入れながら、自社技術の開発・充実を推進します。

### ■ 当社の事業領域



#### ヨード事業

##### ● 主な特徴・用途

ヨウ素の有機化合物を中心に開発・製造・販売を行っております。

ヨウ素は、造影剤、殺菌、医薬品、電子材料、写真薬など非常に幅広い分野で利用されております。当社は複写機・プリンター・フラットパネルディスプレイに使用される中間体を中心に供給しております。

##### ● 戦略

柱となる製品群の拡大と新規製品開発により、国内市場・海外市場のシェアアップをめざします。

#### SC・グループ会社

##### ● 主な特徴・用途

近年デジタル化の急速な進展に伴い必要とされる素材の切り替わりがめまぐるしい、感光剤、情報記録材料、電子材料分野に、当社に蓄積された技術で高付加価値製品を提供しています。また、連結子会社である八幸通商株式会社とともに、戦略的アライアンスを進めております。

##### ● 戦略

連結子会社である八幸通商株式会社、南京八幸薬業科技有限公司を中心に、生産、販売に関するアライアンス戦略を進めます。

#### ● ヘルスサポート事業

##### ● 主な特徴・用途

海水成分を活用した当社発祥の事業であります。製品としては、日本薬局方規格・日本工業規格に適合した塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化マグネシウム等を生産しております。

用途としましては、人工透析薬剤用原料及び試薬剤、食品添加物など医療・食品分野で使用されております。

##### ● 戦略

健康支援ビジネスの構築を推進し、川下製品の開発、事業化をめざします。

# Consolidated Financial Statements

■ 連結財務諸表

## ■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当 期 2012年3月31日現在	前 期 2011年3月31日現在		当 期 2012年3月31日現在	前 期 2011年3月31日現在
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>7,879</b>	<b>8,296</b>	<b>流動負債</b>	<b>3,084</b>	<b>3,301</b>
現金及び預金	1,259	996	買掛金	1,235	1,199
受取手形及び売掛金	3,051	3,053	短期借入金	946	1,303
有価証券	160	734	未払法人税等	96	157
金銭の信託	1,200	1,450	賞与引当金	140	125
商品及び製品	1,028	1,001	その他	665	516
仕掛金	545	347	<b>固定負債</b>	<b>719</b>	<b>765</b>
原材料及び貯蔵品	387	472	長期借入金	333	291
繰延税金資産	121	129	退職給付引当金	—	246
その他	127	112	役員退職慰労引当金	54	54
貸倒引当金	△ 2	△ 2	負ののれん	81	121
<b>固定資産</b>	<b>4,506</b>	<b>4,256</b>	その他	249	51
<b>有形固定資産</b>	<b>3,073</b>	<b>2,960</b>	<b>負債合計</b>	<b>3,804</b>	<b>4,066</b>
建物及び構築物	1,098	1,117	<b>純資産の部</b>		
機械装置及び運搬具	608	555	<b>株主資本</b>	<b>8,605</b>	<b>8,576</b>
土地	1,146	1,146	資本金	1,757	1,757
建設仮勘定	50	26	資本剰余金	1,947	1,947
その他	168	113	利益剰余金	5,144	5,114
<b>無形固定資産</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	自己株式	△ 243	△ 243
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,429</b>	<b>1,291</b>	<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△ 23</b>	<b>△ 90</b>
投資有価証券	1,030	873	その他有価証券評価差額金	15	△ 27
長期貸付金	109	110	為替換算調整勘定	△ 48	△ 63
繰延税金資産	84	99	繰延ヘッジ損益	8	—
その他	205	209	<b>純資産合計</b>	<b>8,582</b>	<b>8,486</b>
貸倒引当金	△ 0	△ 0	<b>負債純資産合計</b>	<b>12,386</b>	<b>12,553</b>
<b>資産合計</b>	<b>12,386</b>	<b>12,553</b>			

## ■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

	当 期 2011年4月 1 日から 2012年3月31日まで	前 期 2010年4月 1 日から 2011年3月31日まで
売上高	9,366	10,026
売上原価	7,545	8,121
販売費及び一般管理費	1,595	1,636
<b>営業利益</b>	<b>225</b>	<b>268</b>
営業外収益	168	159
営業外費用	24	58
<b>経常利益</b>	<b>369</b>	<b>369</b>
特別利益	0	4
特別損失	149	16
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>220</b>	<b>357</b>
法人税、住民税及び事業税	120	172
法人税等調整額	△ 8	△ 37
<b>当期純利益</b>	<b>109</b>	<b>222</b>

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当 期 2011年4月 1 日から 2012年3月31日まで	前 期 2010年4月 1 日から 2011年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	311	762
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 141	△ 775
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 394	△ 353
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△ 12
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 219	△ 378
現金及び現金同等物の期首残高	1,502	1,881
現金及び現金同等物の期末残高	1,283	1,502

### キャッシュ・フローの状況

営業活動によるCFは311百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益220百万円や減価償却費等の非資金項目283百万円等を調整したことなどによるものです。  
投資活動によるCFは141百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得に使用したものです。  
財務活動によるCFは394百万円の支出となりました。これは主に、短期借入金の返済等によるものです。  
これらの結果、当連結会計年度における現金及び現金同等物の期末残高は、期首に比べ219百万円減少し、1,283百万円となりました。

## ■ 連結株主資本等変動計算書 (2011年4月1日から2012年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	繰延ヘッジ損益	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	1,757	1,947	5,114	△ 243	8,576	△ 27	△ 63	—	△ 90	8,486
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 80		△ 80					△ 80
当期純利益			109		109					109
自己株式の取得				△ 0	△ 0					△ 0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						42	15	8	66	66
連結会計年度中の変動額合計			29	△ 0	29	42	15	8	66	96
当期末残高	1,757	1,947	5,144	△ 243	8,605	15	△ 48	8	△ 23	8,582

## ■ 株式の状況 (2012年3月31日現在)

発行可能株式総数 ..... 23,200,000株  
 発行済株式総数 ..... 8,625,000株  
 株主数 ..... 1,124名  
 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
東ソー株式会社	1,608	20.0
財団法人松永育英奨学会	916	11.4
三菱製紙販売株式会社	607	7.6
株式会社広島銀行	322	4.0
杉之原 祥二	258	3.2
マナック社員持株会	255	3.2
合同資源産業株式会社	200	2.5
日本生命保険相互会社	148	1.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	140	1.7
光和物産株式会社	121	1.5

(注) 1. 上記のほか、当社保有の自己株式が590千株あります。  
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 配当関連情報

### ■ 当社の株主還元方針

利益配分につきましては、長期的観点から事業収益の拡大と株主資本純利益率の向上を図るとともに、自己資本の充実と財務体質強化、株主の皆様への長期的、安定的な配当水準の維持に努めながら、利益配当額を決定していく予定です。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。これらの剰余金の配当の決定機関は、中間配当については、取締役会、期末配当については、株主総会であります。

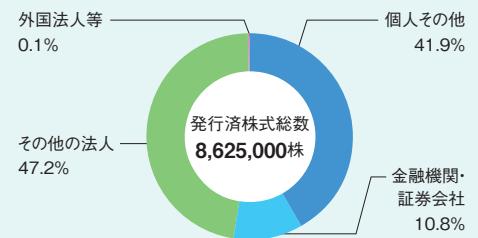
### ■ 第67期の配当金

第67期の期末配当金につきましては、1株当たり5円とすることに決定いたしました。これにより、第67期の年間配当金は、中間配当金2円50銭を加え、7円50銭となりました。

### 株主数別分布状況



### 株式数別分布状況



## ■ 会社概要 (2012年3月31日現在)

社名 マナック株式会社  
**MANAC INCORPORATED**

本社所在地 〒721-0956  
 広島県福山市箕沖町92番地

設立 1948年(昭和23年)5月

資本金 17億5,750万円

従業員数 181名(グループ従業員数327名)

事業内容 難燃剤、医薬品、食品添加物、写真感光材料、高機能性材料、電子材料、染料、香料など様々な分野の先端技術産業に原材料を供給

## ■ 役員 (2012年6月26日現在)

代表取締役社長 杉之原 祥二  
 代表取締役専務 三道 克己  
 常務取締役 村田 耕也  
 取締役 北村 彰秀  
 取締役 石井 潔  
 取締役 大久保 俊司  
 取締役 峰重 克己  
 常勤監査役 日野 智章  
 監査役 内海 康仁  
 監査役 本田 祐二

(注) 1. 取締役 大久保俊司氏及び峰重克己氏は、社外取締役であります。  
 2. 監査役 内海康仁氏及び本田祐二氏は、社外監査役であります。



臭素記念塔

## ■ 主な事業所

本社 〒721-0956  
 広島県福山市箕沖町92番地  
 TEL: 084-954-3330 FAX: 084-957-4370

東京支社 〒103-0027  
 東京都中央区日本橋3丁目8番4号  
 日本橋さくら通りビル6階  
 TEL: 03-3242-2561 FAX: 03-3242-2564

大阪営業所 〒541-0045  
 大阪市中央区道修町1丁目4番6号  
 ミフネ道修町ビル8階  
 TEL: 06-6205-6771 FAX: 06-6227-5978

福山工場 〒721-0956  
 広島県福山市箕沖町92番地  
 TEL: 084-954-3330 FAX: 084-953-8523

郷分事業所 〒720-0093  
 広島県福山市郷分町950番地の1  
 TEL: 084-951-2501 FAX: 084-951-2502

## ■ 子会社

社名 八幸通商株式会社  
 [100%出資子会社で南京八幸薬業科技有限公司(中国・南京市)も連結子会社としております。]

本社 〒103-0025  
 東京都中央区日本橋茅場町2丁目7番6号  
 晴花ビル3階

事業内容 化学薬品の製造、販売

社名 エムシーサービス株式会社  
 本社 〒721-0956  
 広島県福山市箕沖町92番地

事業内容 事務・物流業務の受託

## ■ 関連会社

社名 ヨード・ファインケム株式会社  
 本社 〒104-0031  
 東京都中央区京橋2丁目12番6号  
 東信商事ビル7階

事業内容 ヨード化合物の製造、販売